

2025年度 事業と経営の概況

(2025.6～2026.5)

公式キャラクター
ビットくん

2025年度の事業に関する主な取り組み

2025年度は、「こくみん共済 coop 中期経営政策2022-25 ～変革と創造～」の最終年度として、中期経営政策で設定しためざす姿の実現にむけて取り組みを進めるとともに、国際協同組合年(IYC2025)を契機とした地域・社会課題への対応や関係団体との共創活動を展開しました。

組合員・生活者との姿 ～寄り添う、身近な存在～

●多様なコミュニケーション手段を確立

組合員とのコミュニケーションの多様化や利便性の向上のために、アプリ・マイページの導入・利用拡大の取り組みを継続展開しました。また、生命系共済金のご請求におけるお問い合わせをWEB上で完結する仕組みの構築や、マイカー共済に関するお問い合わせの即時解消にむけたAIチャット機能の展開等、WEB機能の拡充の取り組みを進めました。

●幅広く安心をサポート

多様化する組合員のニーズを踏まえ、2025年4月に実施した個人長期生命共済・終身生命共済の予定利率引き上げを契機として、資産形成等を含めたトータルな保障の提案を進めました。

さらに、若年層をはじめとした組合員の価値観に寄り添い、「加入」から「変更」、「共済金のお届け」までのすべてがデジタルで完結する「こくみん共済 あっと」(WEB専用商品)を2026年5月から実施しました。

●事業・運動への参加、共感を拡大

被災地の復興支援につなげる取り組み「みんなで被災地応援プロジェクト」(住まいる共済見稿数に応じた寄付)を継続展開しました。

あわせて、持続可能な社会の実現にむけて、カーボンニュートラルへの取り組みを進める等、SDGsロードマップにもとづく各種取り組みを進めました。

●みんなで被災地応援プロジェクト取り組み状況
(2025年6月～11月末)

見稿件数	寄付・助成金額	寄付先
73,489件	7,348,900円	日本赤十字社等

協力団体・共創パートナー団体との姿 ～事業と運動の強固なパートナーシップ～

●スムーズで迅速な共済活動

セット共済におけるお手続きのデジタル化により、組合員の利便性向上や協力団体の事務等の効率化を進める「セット共済WEBシステム」について、2025年2月から本格展開をおこない、496団体で導入が決定(2026年5月末時点)しました。

●地域課題解決にむけた共創

「7才の交通安全プロジェクト」(マイカー共済の見稿数に応じた横断旗の寄贈等)と「こどもの成長応援プロジェクト」(こくみん共済「こども保障タイプ」の加入件数に応じたなわとび・長なわの寄贈等)を継続展開しました。

また、国際協同組合年(IYC2025)を契機として、地域課題の解決にむけて、各エリアで他の協同組合等と連携した取り組みを進めるとともに、国際協同組合デーである2025年7月5日に、「見て 聞いて 体験 協同組合フェスティバル」を東京国際フォーラムで他の協同組合等と共同で開催しました。

業務・経営の姿 ～最適な体制、人財の活躍、さらに健全な経営～

●体制・役割を最適化

2025年9月に共済事務、生命系共済金のお届け業務を担う関連事業会社を当会に統合し、組合員へ寄り添う新たな体制づくりを進めました。

●事務・お支払等を高度化・効率化

共済事務手続きの迅速化にむけて、住まいる共済の更新手続きにおける点検業務の自動化を進めるとともに、迅速な共済金のお届けにむけて、団体生命共済の共済金のWEB請求(アプリ・マイページ)に関する導入団体数を拡大しました。また、新たな損害調査システムとして損害調査対応時のチャット機能の活用等、組合員の利便性の向上にむけた取り組みを展開しました。

●お役立ちを進める推進体制

組合員や職員の「声」を起点としたCX(組合員体験価値)創造をおこなうCX-Challengeの取り組みを進めました。また、組合員一人一人への寄り添いのために、組合員に関するさまざまな情報を一つにまとめて可視化し、ライフイベントにもとづく保障提案をおこなうCRMシステムを段階的に展開しました。

※CRM(Customer Relationship Management)システム：こくみん共済 coop の各システムに登録された情報を管理・分析し、組合員との深く長い関係づくりを支援する仕組み

大規模災害への対応

2025年度も複数の大規模災害が発生しましたが、当会として被害への迅速な対応を進めました。特に被害規模が大きかった、2025年12月8日に発生した青森県東方沖を震源とする地震および2026年1月6日に発生した島根県東部を震源とする地震では、受電要員を増員しました。また、受電応答率を低下させないよう、音声自動応答による受付機能の活用や簡易受付の対応を進めました。

2026年冬期災害においては、迅速な共済金のお届けにむけて、被災エリア外を含む全国の拠点による応援体制を構築し、新たなシステムを活用した書類審査の全国対応をおこないました。

カーボンニュートラルの取り組み

豊かで安心できる社会づくりをめざす生活協同組合として、組合員の皆さまとともにカーボンニュートラルを進め、みんなで環境を守る「ずっとずっとアクション」に取り組んでいます。業務におけるエネルギーや資源の使用を見直すことで、2030年までにCO2排出量60%削減をめざします。

また、2026年5月から組合員の皆さまと一緒に未来につながる森をつくる「こくみん共済 coop の森」をスタートしました。組合員の皆さまがマイページに登録いただくことで削減できた紙のコストを、森づくり活動に寄付することで、CO2の吸収量向上に貢献することをめざしています。

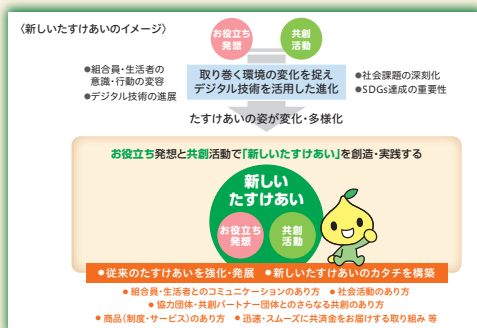
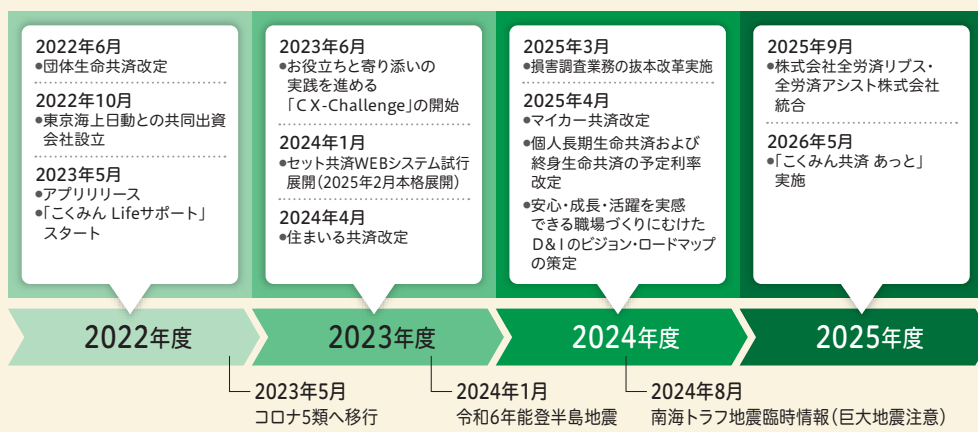
「こくみん共済 coop 中期経営政策2022-25 ～変革と創造～」
取り組み報告

「こくみん共済 coop 中期経営政策2022-25 ～変革と創造～」では、めざす姿への変革の実現にむけて、お役立ち発想と共創活動にデジタル技術を取り入れた「新しいたすけあい」の創造・実践に取り組みしました。

新しいたすけあいの創造・実践

アプリやセット共済WEB 取り組みの振り返り

システム等のデジタル技術等を活用した「新しいたすけあい」の創造・実践として、組合員・生活者との多様なコミュニケーション手段を確立し、組合員・生活者一人一人に寄り添う取り組みを進めました。



I 契約高は799兆円、支払共済金は3,263億円となりました

- 2025年度は、契約高799兆円、受入共済掛金5,297億円、契約件数2,847万件、契約口数38.5億口となりました。
- (1)共済別の契約件数は、自然災害共済、マイカー共済、自賠責共済等の損害系共済のほか、終身生命共済が前期を上回りました。一方、その他の生命系共済、火災共済は前期より減少しました。
- (2)契約口数では、自然災害共済、マイカー共済、自賠責共済等の損害系共済に加え、終身生命共済で前期を上回りました。
- (3)支払共済金は、車の事故による損害や冬期災害等による住宅の被害への共済金のお届け等を進めた結果、3,263億円をお届けし、組合員の皆さまにお役立ていただきました。

●事業の成果

	契約高	契約件数	契約口数	受入共済掛金	支払共済金	支払件数
2025年度	799兆円	2,847万件	38.5億口	5,297億円	3,263億円	197.5万件

●契約件数の内訳

(2026年5月31日現在)

火災共済	381万件	団体生命移行共済	4万件
自然災害共済	226万件	個人長期生命共済	54万件
交通災害共済	231万件	ねんきん共済 新団体年金共済等	71万件
マイカー共済	230万件	終身生命共済	47万件
自賠責共済	30万件	火災再共済	15万件
団体生命共済	493万件	慶弔再共済	422万件
こくみん共済	475万件	受託事業	168万件

契約件数 合計 2,847万件

●支払共済金の内訳

火災共済	177億円	個人長期生命共済	279億円
自然災害共済	101億円	ねんきん共済 新団体年金共済等	873億円
交通災害共済	29億円	終身生命共済	201億円
マイカー共済 ・自動車再共済	756億円	個人賠償責任共済	7億円
自賠責共済	16億円	火災再共済	1億円
団体生命共済	362億円	慶弔再共済	32億円
こくみん共済 (団体生命移行共済含む)	429億円		

支払共済金 合計 3,263億円

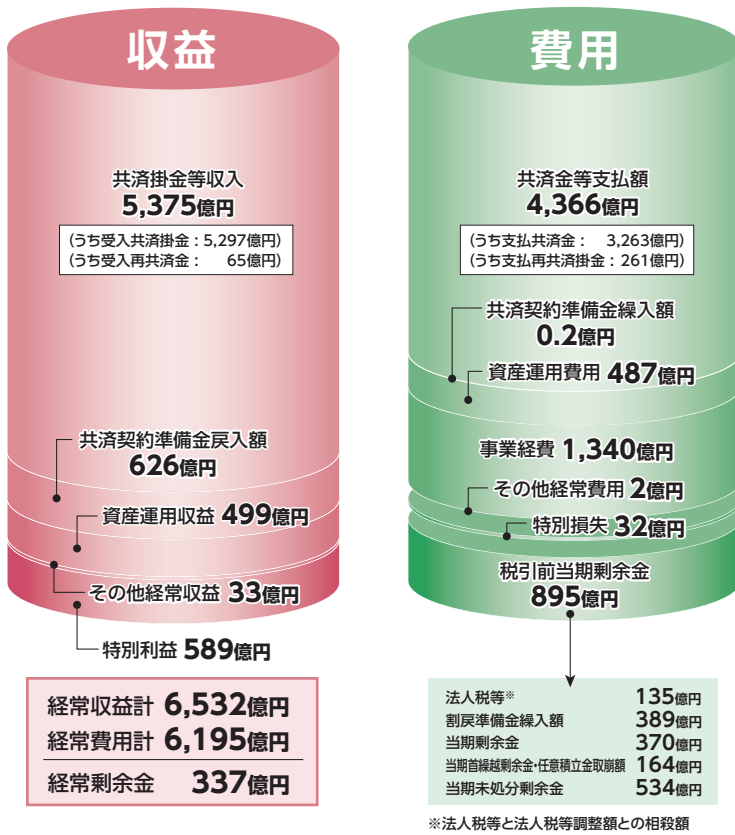
II 経常剰余金は337億円となりました

- (1)経常収益は、前期比72億円増加の6,532億円、経常費用は、6,195億円となりました。
- (2)資産運用純益は、2026年度以降の運用利回り改善にむけて実施した公社債の入れ替えにより、前期比479億円減少し、12億円(運用利回り0.03%)となりました。
- (3)この結果、経常剰余金は、前期比481億円減少の337億円となりました。当期剰余金は370億円となり、当期末処分剰余金は534億円となりました。
- (4)契約者割戻金については、組合員還元の観点から前期比5億円増加の389億円となりました。
- (注)資産運用純益は資産運用収益から資産運用費用を控除した額となります。

●契約者割戻金

共済	割戻金
団体生命共済	161億円
こくみん共済(短期)	168億円
個人長期生命共済	34億円
新団体年金共済	5億円
終身生命共済	22億円
合計	389億円

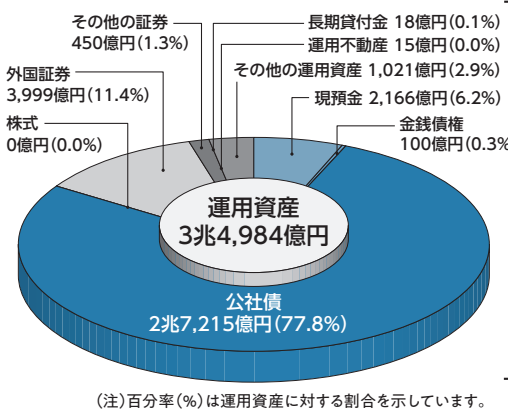
●損益の状況



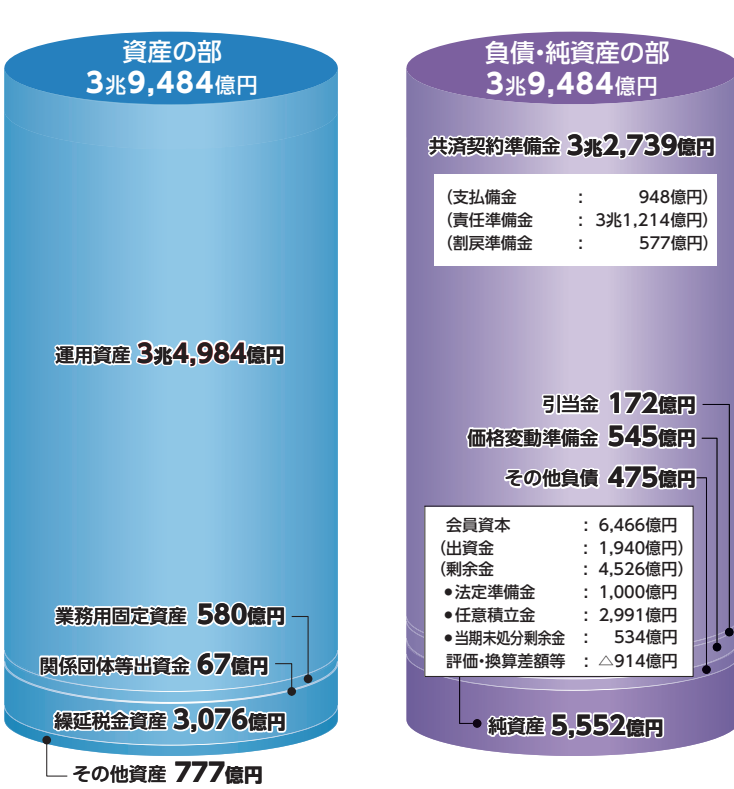
III 総資産は3兆9,484億円となりました

- (1)総資産は、前期比543億円減少の3兆9,484億円となりました。このうち、運用資産は、前期比580億円減少の3兆4,984億円となりました。
- (2)負債は、前期比961億円減少の3兆3,932億円となり、純資産は、前期比418億円増加の5,552億円となりました。

●運用資産の状況



●資産と負債・純資産の状況



IV 組合員の信頼に応えられる十分な健全性を有しています

基礎利益は、前期比82億円増加の1,267億円となりました。このうち、利差損益は186億円と過去最高の利差益となりました。

●基礎利益

1,267億円

	2024年度	2025年度	増減
基礎利益	1,185億円	1,267億円	82億円
費差損益	10億円	16億円	6億円
利差損益	94億円	186億円	92億円
危険差損益	1,082億円	1,065億円	△17億円

(注)基礎利益は、経常剰余金から有価証券売却損益等の「キャピタル損益」と異常危険準備金繰入額等の「臨時損益」を控除した額です。

●支払余力比率

1,979.7%

	2024年度	2025年度	増減
支払余力総額(A)	1兆4,328億円	1兆4,258億円	△70億円
リスクの合計額(B)	1,432億円	1,440億円	9億円
支払余力比率 (A)÷(B)×(1/2)×100	2,001.5%	1,979.7%	△21.8p

(注1)消費生活協同組合法施行規則ならびに同法施行規則にもとづいて算出しています。
(注2)保険会社のESR(経済価値ベースのソルベンシー比率)等とは計算方法が異なるため比較できません。
また、生命共済事業と損害共済事業の両方を実施していることから、保険会社のソルベンシー・マージン比率とも比較できません。

●修正自己資本

1兆1,279億円

修正自己資本比率 28.6%

	2024年度	2025年度	増減
修正自己資本	1兆1,208億円	1兆1,279億円	71億円
修正自己資本比率	28.0%	28.6%	0.6p

●実質純資産額

1兆872億円

実質純資産比率 27.5%

	2024年度	2025年度	増減
実質純資産額	1兆2,918億円	1兆872億円	△2,045億円
実質純資産比率	32.3%	27.5%	△4.7p

(注)実質純資産額とは、異常危険準備金等を含んだ広義の「自己資本」に「含み損益」を加算した額です。言い換えると、時価ベースの総資産額から負債(異常危険準備金等の資本性を有する負債を除く)を引いた額です。